

第2章 阿久根市の将来都市像

1 都市づくりの基本理念

本市では、令和2年度からを期間とする「阿久根市まちづくりビジョン」を策定し、目指すべきまちづくりの方向を明確に示し、その実現に向けて総合的かつ計画的な施策の推進に取り組んでいます。

本計画は、「阿久根市まちづくりビジョン」で掲げられた目標を都市づくりの側面からの実現を目指すことを基本理念とし、基本方針については、都市計画の観点に立った新たな方針を掲げることとします。

(参考) 阿久根市まちづくりビジョンの将来像

「帰ってきたくなる 行ってみたくなる 東シナ海の宝のまち あくね」

2 都市づくりの基本方針

本計画では、「阿久根市まちづくりビジョン」の将来像の考え方を踏まえ、都市づくりのテーマ（将来都市像）と基本方針を以下のように定めます。

都市づくりのテーマ（将来都市像）

- 安全で潤いと安らぎにあふれたまち あくね

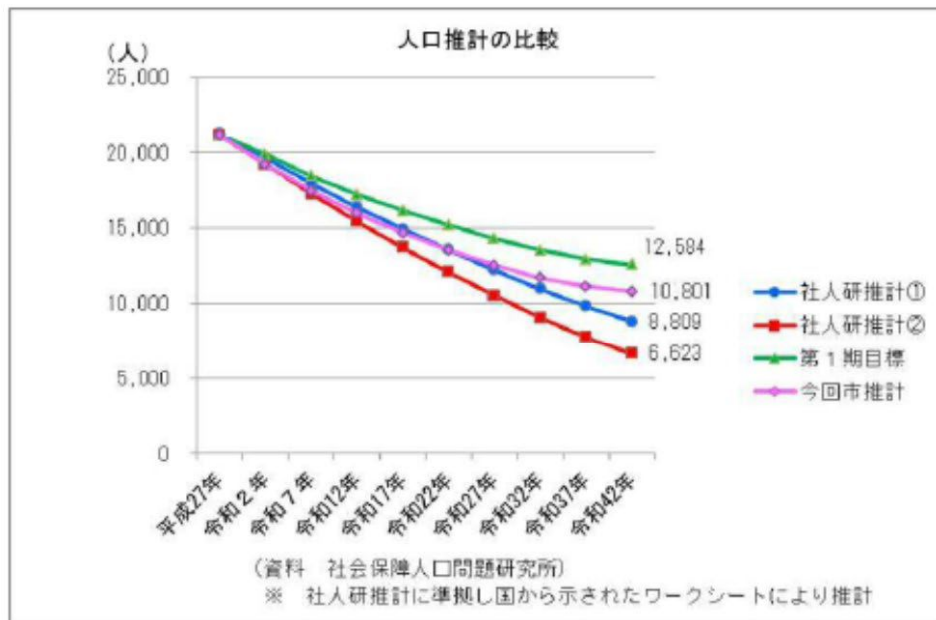
都市づくりの基本方針

- 方針① 計画的な基盤整備による快適で安全・安心なまちづくり
- 方針② 都市機能が集積した生活に便利なまちづくり
- 方針③ 自然や人が共生した持続可能なまちづくり

3 将来人口の見通し

将来人口の見通しについては、令和2年度策定の「阿久根市まちづくりビジョン」に基づくものとします。

- ・ 人口減少傾向が将来も続くと仮定した場合、令和42(2060)年の人口推計は、社人研の平成25年の推計(社人研①)では8,809人、平成30年の推計(社人研②)では6,623人と予測されています。
- ・ このことから、各種施策の実施による将来人口目標として、令和42(2060)年に10,800人を目指すこととしています。
- ・ 長期的には人口減少が避けられない状況にあるものの、まちの魅力向上を図ることで、減少をできる限り抑制していくとともに、出生率の向上や若年層をはじめとするあらゆる世代の社会増減の改善を図るものとします。



4 将来都市構造

(1) 将来都市構造の考え方

急激な人口減少と高齢化は全国的な問題ですが、本市においても、現在の市街地規模のまま人口減少が続けば、市街地の人口密度が低下し、日常生活を支える生活サービス機能や公共交通等の機能が低下することで、現在の暮らしやすさが損なわれることが危惧されています。

こうした人口減少や高齢化を踏まえた都市づくりの考え方として、「コンパクト・プラス・ネットワーク」が国において示されています。

これは、自家用車利用を前提に市街地を整備しながら都市の発展・拡大を目指してきたこれまでの都市づくりと異なり、既に整備された市街地に医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、歩いて暮らせるまちとするとともに、その拠点間を公共交通でネットワーク化し、日常生活に必要なサービスが住まいの身近に存在する「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を目指すものです。

本市においても、この「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づき、人口減少・少子高齢時代においても一定の人口密度を確保し、持続可能なコンパクトな都市づくりを進めることで、現在の暮らしやすさを維持する必要があります。

(2) 将来都市構造

本市の都市構造は、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づき、中心市街地に都市機能を集約し、日常的な生活サービス機能を提供する生活拠点と中心市街地を利便性の高い公共交通でつなぐ都市形態を目指します。

ア 拠点の考え方

(ア) 中心都市拠点

- ・ 阿久根駅から市役所周辺を中心都市拠点と位置付けます。
- ・ 商業機能や業務機能、公共サービス機能等の都市機能を維持・誘導し、都市の中心拠点として魅力ある都市空間を創出します。

(イ) 地域生活拠点

- ・ 北部地域の脇本地域，南部地域の大川地域を地域生活拠点と位置付けます。
- ・ 地域生活拠点では，地域住民の日常生活を支える生活サービス機能を維持・充実します。

(ウ) 工業・流通拠点

- ・ 阿久根漁港一帯と市街地南部地区を工業拠点と位置付けます。
- ・ 阿久根北 IC 周辺や（仮称）西目 IC 周辺部は，広域交通ネットワークに近接する利便性を生かした流通拠点と位置付けます。

(エ) 観光・レクリエーション拠点

- ・ 脇本海水浴場，阿久根大島，大川島海水浴場，黒之瀬戸，寺島（寺島宗則記念館），番所丘公園等を観光・レクリエーション拠点と位置付けます。
- ・ 市民のリフレッシュの場，また身近な自然とのふれあいの場としての機能の維持・充実を図ります。

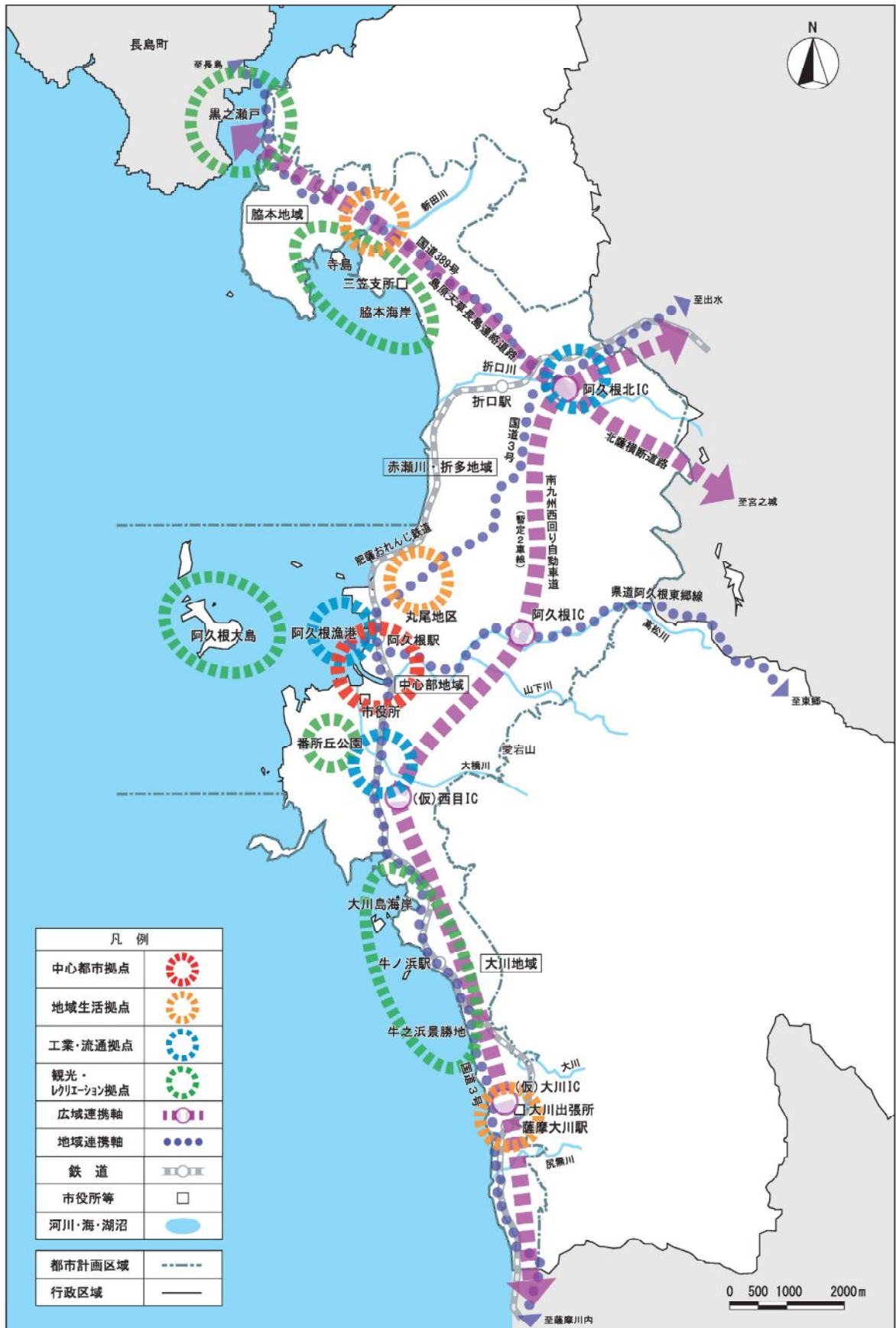
イ 軸の考え方

(ア) 広域連携軸

- ・ 南九州西回り自動車道は，国土レベルの連携を担う「広域連携軸」として位置付け，阿久根市と他の都市圏とのアクセス性の向上や経済・文化・観光等の交流人口の増大を図ります。
- ・ 北薩横断道路と島原天草長島連絡道路も，隣接都市との交流強化に資する広域連携軸として位置付け，その整備を促進します。

(イ) 地域連携軸

- ・ 国道 3 号，国道 389 号，主要地方道県道阿久根東郷線は，市内各拠点や隣接市町との往来に多く利用されている路線であることから，地域連携軸として位置付けます。これらの路線は，既に整備が完了しているため，整備完了箇所機能向上や適切な維持管理を行います。
- ・ 肥薩おれんじ鉄道は，高齢者等の自動車に頼ることができない市民にとって，日常生活に必要な交通機関であり，将来的にもその役割を果たさせるべく地域連携軸と位置付けて，利用の促進を図ります。



■ 将来都市構造図